

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	八代海

ノリ養殖指導

県南広域本部水産課・宮崎 孝弘

【背景・目的】

近年、八代海のノリ養殖は、秋芽生産期の高水温化、色落ちの早期発生、あかぐされ病の拡大等により、生産枚数及び生産金額は減少し続け、平成20年度には38あった経営体数が、平成30年度には2経営体となっている。

県南広域本部水産課と熊本県漁業協同組合連合会は、漁期前の勉強会を行い、芽付検鏡や養殖状況調査を実施し、得られた情報やノリの状態に応じた養殖管理方法をノリ養殖業者等に随時提供することで、ノリの安定生産を図ることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) ノリ生産者との勉強会

- ①実施月・場所：平成30年11月・三角町漁協
- ②内容：平成30年度漁期に向けての課題、色落ち対策について

(2) 採苗指導

- ①実施月・場所：平成30年10月（3回）、三角町漁協郡浦支所
- ②内容：経営体ごとに採苗直後の芽数、芽いたみ等の検鏡と養殖指導

(3) 養殖状況調査

- ①実施月・場所：平成30年11月～翌1月（10回）、八代海湾奥（図1）
- ②内容：漁場ごとの環境調査（水温、比重、プランクトン沈殿量）、経営体ごとノリ葉体の葉長、病害、黒み度等の調査、情報提供及び養殖指導調査のとりまとめを図2に示す。

【成果・活用】

本年度も採苗指導や養殖状況調査により、海況や養殖網の状況を把握し、「不知火地区ノリ養殖速報（別添資料）」によって関係機関や養殖業者に周知することで、各養殖段階で養殖業者が行う適切な網管理に寄与することができた。

10月下旬の採苗では、芽付きのバラツキは見られたが、おおむね良好な芽付きであった。しかし、その後の育苗期から葉体に傷みが見られ、切れ流れが生じ、なかなか葉体の伸びが見られなかった。12月に入ると葉体の傷みがなくなり、下旬には色の良いノリが収穫され、1月上旬の第3回入札会では品質の良い本等級のノリが出品された。

その後も、豊富な栄養塩に助けられ、順調な収穫が続き、3月上旬に漁期が終了した。

本年度の生産枚数は1,499千枚（昨年度1,461千枚）と昨年度と変わらなかったものの、生産金額は16,389千円（同10,278千円）と前年比159%の生産となった。

(様式)

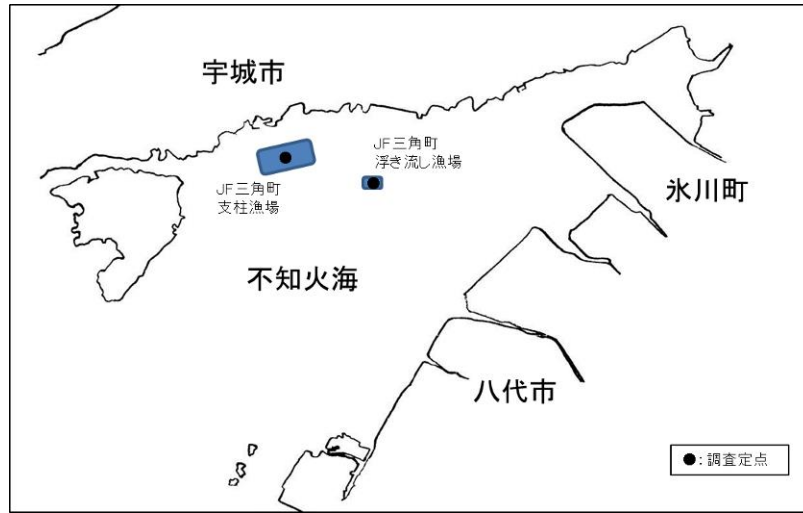


図1 養殖状況調査定点図



写真1 芽付き状況（採苗網）の確認



写真2 養殖状況の確認

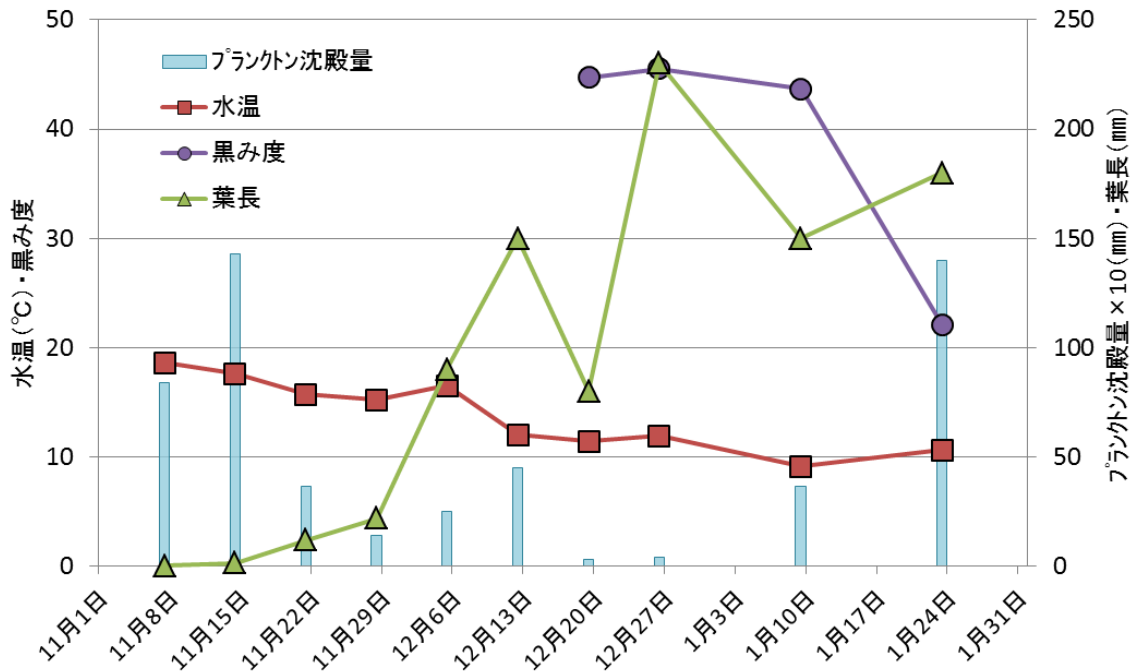


図2 養殖状況調査の結果（とりまとめ）